

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大 学 名	上智大学
整理番号	B15
構 想 名	多層的ハブ機能を有するグローバルキャンパスの創成と支援ガバナンスの確立

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価)	優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。
S	
(コメント)	<p>本構想は、カトリック大学としての独自の海外ネットワーク等の特色を活かし、学生や教員・スタッフの国際交流の推進を通して、国際競争力の強化と国際通用性の向上を目的としたプログラムである。</p> <p>プログラムは「1.世界をつなぐ「叡智」の醸成」「2.グローバル・キャンパスの創成」「3.世界に並び立つ教育研究を支援するガバナンス改革」の三つの柱からなり、それぞれが計画に沿って量的拡大・質的改善を着実に進めており、充実した成果を出している。事業全体が順調に進んでいるが、特に、交換留学協定校数、海外指定校締結数、日本人学生に占める留学経験者数、そして、外国人留学生受入数がそれぞれ、平成25年度と比べ、2~4倍と増加しており、継続的な努力の成果が数字となって出てきている。また、学生への経済的負担の軽減を図る措置が様々に考えられており、特に地方出身者や留学生への奨学金が充実している点は高く評価できる。さらに、文系だけでなく理工系もグローバル化に向けて充実したプログラムを進めており、若手研究者の支援も充実している。財政支援期間終了後を見据えた自走化計画に関しても、資産運用や新棟を用いたテナント収入等、具体的な財源の確保が図られている。</p> <p>達成できていない点についても、対策が綿密に検討されており、シラバスの(強制的な)英語化など、あえて行っていない事柄についても明確なポリシーが説明されたことは評価できる。</p> <p>一方、「学生の授業評価への参加」は、授業内容や教育の質の向上に関わる重要な指標であるため、回答率の向上に向け、積極的な取組が行われることが望まれる。</p> <p>国際化教育の豊かな経験と実績のある大学として、その優位性を引き続き十分に活かし、自立的な取組の継続により、日本の他大学の今後のモデルとなることを期待する。</p>